



課題解決ラボ

学生が研究テーマ発表

中小企業と10大学 新商品開発など

中小企業の抱える経営課題を大学生がゼミ単位で調査研究する「課題解決ラボ」の中間発表会が7日、神戸市中央区の神戸新聞社で開かれた。学生ら250人が参加し、学生視点を取り入れた新商品の開発などの研究テーマを発表した。成果は10月24日の最終発表会で披露する。

課題解決ラボは、兵庫県内の中小企業と大學生の就職マッチングを支援する「Mラボ」（神戸新聞社など主催）の中核事業で、201



県内企業の課題を解決する研究テーマを発表する学生ら＝神戸新聞社（撮影・宮路博志）

……NEXTに動画

3年から始まり今回で3回目。10社と県内外10大学20チームが参加している。学生たちは6月から企業訪問や経営者との意見交換を通して、研究テーマを探ってきた。

発表会では、精米卸

のヒョウベイ（神戸市兵庫区）と組む、甲南大学経営学部の西村順二教授のゼミが「米ぬかの栄養価を利用した高品質な製品で、顧客の満足度を最大化する」として、ペースト状米ぬかなど、具体的な製品を提案した。

ヒョウベイでは「新たな視点に気付くことができた」と評価。同大3年の田頭沙也加さん（21）＝神戸市東灘区＝は「企業と話し合っ て商品化につなげた い」と話していた。

（塩津あかね）